

第八回 福原徹 演奏会

徹 の 笛

2016年11月30日(水) 午後7時開演 東京文化会館小ホール

●後援・公益財団法人 日本伝統文化振興財団

(有) 邦楽ジャーナル

(株) 邦楽の友社

●助成・アートウンシル東京(公益財団法人 東京都歴史文化財団)

ARTS
COUNCIL
TOKYO



本日はお忙しい中ご来場いただき、誠にありがとうございます。
ございます。

2012年に再開し五回目、2001年の初回から数えて八回目のリサイタルを迎えることができました。

去年は、和の舞台で笛と声と囃子による「マクベス」を発表しましたが、今年は再びコンサートホールに戻って参りました。この東京文化会館は私と同年だそうですが、NHKの児童合唱団にいた頃はここの大ホールで歌い、学生時代はこの建物の前を歩いて大学へ通った、思い出深いホールでもあります。

相変わらず試行錯誤の連続ですが、そんな「試行錯誤」に今回も長い時間をかけて付き合ってくださった共演者の皆さんをはじめ、多くの皆様にご協力をいただきました。また、御助成賜りましたアーツカウンシル東京、御後援いただきました各位に、この場をお借りして御礼申し上げます。

最後になりましたが、御来場いただきました皆様方に改めて御礼申し上げます。

本日はありがとうございました。

福原 徹

PROGRAM

三番叟

能管 福原 徹

solo 05 ヤン・シックスの肖像 〔初演〕

篠笛 福原 徹

無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番より

ジャコンヌ

篠笛 福原 徹

ピアノ 中川俊郎

————— 休憩 —————

京の夜

篠笛 福原 徹

蔭囃子 福原百之助

千年の桜 〔2016年版 初演〕

満開の桜 〔初演〕

竹 〔初演〕

皇帝の新しい服 〔初演〕

夢は枯野を 〔初演〕

千年の桜 〔改訂初演〕

篠笛・能管 福原 徹

尺八 善養寺恵介

太棹三味線 鶴澤津賀寿

ピアノ 中川俊郎

三番叟

この会では、今まで「ゆき」「黒髪」「もみぢ葉」「明の鐘」「越後獅子」という地歌や長唄の名曲を、篠笛のソロで取り上げて来た。今年も、この東京文化会館の舞台。ここでの初番には「三番叟」が相応しい。能管の独奏。

solo 05 ヤン・シックスの肖像

画集にはよく掲載されているものの、あまり人前には出てこない、レンブラント・ファン・レイン（1606～69）「ヤン・シックスの肖像」。それが昨年、アムステルダム国立美術館の「LATE REMBRADT」展で見られるという。これはもう、行くしかない。

実物を見ることが出来て良かった。厚塗りではなく素早い筆致のように見える、暖かく穏やかな絵。ヤン・シックスはレンブラントのパトロンだった人物。

笛の独奏曲をたくさん作ることを目指し2012年から毎回作り続けているソロシリーズも、ようやく5つ目。

ジャコンヌ

第三回「徹の笛」で中川さんとこの名曲に取り組んでから、ちょうど10年。前回の相手はチェンバロだったが、今回はピアノ。2014年には同じくバッハの「ゴルトベルク変奏曲」全曲を中川さんとご一緒させていただいた。作品に取り組むこと、演奏することそのものが、長い旅のように思われた。

この10年という歳月で、私自身も何かが変わっているはずだ。

京の夜

1970年のNHK大河ドラマ「縦ノ木は残った」の挿入曲として作られた。

篠笛の独奏曲として、今も多くの人に愛されている。

師匠の作品を自分のリサイタルで吹くのは、これが初めて。

千年の桜

2004年の第二回「徹の笛」で、「千年の桜」という作品（笛・謡・太棹三味線・ピアノ）を発表した。昔、桜は生命力の象徴として愛されたが、後に散ることの美学へとその比重が移って行った桜への、いろいろな思いをはせながら構成した。

その中に、福島県三春の「滝桜」のイメージで作った部分があり、そのメロディをふくらませて出来たのが、笛・太棹三味線・ピアノによる「三重奏曲」である。



その後、2011年の震災直後、ユーストリームチャリティライブでその滝桜のところを「千年の桜」と題して笛とピアノだけで演奏し、さらに2012年に新たな章を二つ作り三章構成として「林の中にいる象のように」（笛・ピアノ）を発表した。そして2015年の洗足池「春宵の響」では、笛・ピアノ版の「千年の桜」に尺八を加え…と、もうかれこれ12年に渡り、構成や編成を変え作り続けている。この作品自体が「いきもの」、そして、その時々の自分そのもの。

四つの新しい章を加えた全五章。

満開の桜

初めて三春の滝桜を見に行ったのは、全く花の咲いていない寒い時期だった。樹齢千年の大木は、峻厳な生命力を秘め、静かに黙ってそこに「居た」。それから何年も経った春爛漫、満開の時期に訪ねて見上げると、大きな身体を揺すりながら「おお、よく来たな、アッハッハ」と声を掛けられたような気がした。

竹

竹　〔萩原朔太郎〕
　　ますくなるもの地面に生え、　　　　なみだをたれ、
　　するとき青きもの地面に生え、　　　いまはや懺悔をはれる肩の上より、
　　凍れる冬をつらぬきて、　　　　　　けぶれる竹の根はひろがり、
　　そのみどり葉光る朝の空路に、　　　　するとき青きもの地面に生え。
　　なみだたれ、

皇帝の新しい服

　　いわゆる「裸の王様」のお話として広く知られているアンデルセンの「皇帝の新しい服」。ここのところ、この話が頭から離れない。
　　この話の結末を、私は勘違いしていた。行列を見ていたひとりの子供が、王様は何も着ていないということを言ってしまい、やがて人々もそれを口々に叫ぶのだが、そこでこの話はおしまい、と思っていた。しかし本当は、いまさら行列をやめるわけにもいかないということで、王様は一段と胸を張り、側近たちはありもしない裳裾を捧げ持ったまま、行列を続けて行くのである。

夢は枯野を

　　旅に病で夢は枯野をかけ廻る　〔松尾芭蕉〕

千年の桜

　　立ち続けている大木。しんしんと降り続ける花びら。
　　笛・尺八・太棹三味線・ピアノという編成に、ようやくたどり着いた。

〔福原徹〕



写真 大窪道治

福原 徹 [ふくはら・とおる / 邦楽囃子笛方]

1961年東京生まれ。六世福原百之助(後の四世宗家寶山左衛門・人間国宝)に入門、福原徹の名を許される。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。邦楽囃子笛方として、長唄・節曲などの演奏会、日本舞踊・歌舞伎の舞台、放送、海外公演等で古典演奏活動を続けると共に、笛を中心とした作曲に取り組む。

2001年第1回演奏会「徹の笛」(津田ホール)を開催、平成13年度文化庁芸術祭大賞(音楽部門)を受賞。2002年～2003年、新作連続演奏会「徹の笛 in MUSICASA」を隔月で連続6回開催。2004年第2回、2006年第3回「徹の笛」(紀尾井ホール)開催。2012年よりリサイタルシリーズを再開、第4回～2014年第6回「徹の笛」(王子ホール)開催。2015年第7回「徹の笛」(紀尾井小ホール)開催。

東京藝術大学、有明教育芸術短期大学、清泉女子大学、立命館大学等の非常勤講師を歴任。NHK文化センター(青山、浜松、名古屋、柏、岐阜)講師。また、東京、浜松、彦根などで指導にあたり「百笛会」を主宰。社団法人長唄協会会員。創邦21同人。

文部科学省検定 中学校音楽教科書「中学器楽 音楽のおくりもの」(教育出版発行平成28年改訂版)著者。CD:1997年作品集「徹」、2007年コンサートライブ盤「徹の笛」、2009年二枚組の作品集「lift off」を発表。



中川俊郎 [なかがわ・としお / 作曲家・ピアニスト]

1958年東京生まれ。桐朋学園大学作曲科卒業。作曲を三善晃、ピアノを末光勝世、森安耀子各氏に師事。武満徹主宰(Music Today '82)国際作曲コンクール第1位。1988年、村松賞受賞。2009年、サントリー芸術財団主催で「作曲家の個展2009、中川俊郎」が開催され、その成果に対して、第28回中島健蔵音楽賞受賞。CM音楽界においても受賞多数。

これまでに歌手の木村弓、演出家小池博史の各氏ともコラボレーションを重ね、また2005年にTrp.曾我部清典、Bar.松平敬とともに結成した、「双子座三重奏団」の活動も注目されている。現在、日本現代音楽協会副会長、日本作曲家協議会理事。お茶の水女子大学非常勤講師。



鶴澤津賀寿 [つるざわ・つがじゅ / 女流義太夫三味線方]

女流義太夫三味線。東京都出身。早稲田大学文学部卒業。

1984年竹本駒之助に入門、三味線を四代目野澤錦糸に師事。1986年駒之助の義母鶴澤三生の幼名を継ぎ、本牧亭にて初舞台。鶴澤重輝の預かり弟子となる。1996年度第47回芸術選奨文部大臣賞新人賞(古典芸術部門)、1997年度第11回清栄会奨励賞、1999年度第4回ビクター財団賞「奨励賞」(現、日本伝統文化振興財団賞)等。

2009年重要無形文化財「義太夫節」総合指定保持者認定。

国立劇場養成課竹本研修講師。一般社団法人義太夫協会理事。

女流義太夫演奏会、都をどり、創作邦楽、演劇など様々な音楽ジャンルの公演に出演。



善養寺恵介 [ぜんやうじ・けいすけ / 琴古流尺八演奏家]

東京藝術大学邦楽科卒業、同大学院修士課程修了。6歳より、虚無僧尺八の手ほどきをうける。同大学在学中は山口五郎師(人間国宝)に師事。1999年、第1回リサイタルを開催以来、現在に至るまで12回を重ね、2008年のリサイタルでは文化庁芸術祭新人賞、2009年では優秀賞を受賞。

2000年2月、尺八教則本「はじめての尺八」(音楽之友社刊)を執筆。2002年5月、日本伝統文化振興財団賞受賞。同年10月、世界銀行主催、世界宗教者国際会議(於イギリス カンタベリー大聖堂)にて、招待演奏。古典を中心とした演奏活動のほか、関東各地にて尺八普及のための尺八教授活動を行っている。

公式web site <http://zenyoji.jp/>



福原百之助 [ふくはら・ひゃくのすけ / 邦楽囃子方]

1975年、常磐津文字蔵(一中節家元、都一中)の長男として東京に生まれる。1991年、祖父である四世寶山左衛門(六代目福原百之助)に師事。同年、望月太喜雄に師事。長唄を東音浅見文子に師事。1993年、福原流笛方、福原徹に師事。1994年、NHK学園高等学校を卒業。以後、福原流囃子方、福原賢太郎として演奏活動を行う。2006年11月、邦楽囃子福原流福原百之助派家元七代目福原百之助を襲名。

邦楽演奏会・日本舞踊会の他にもワークショップやレクチャーコンサートなどの企画や公演を行い、日本の伝統芸能である邦楽の普及に努めている。また、アメリカをはじめ、上海、ドイツ、オーストリアなど、海外での公演にも多数参加している。社団法人長唄協会会員。邦楽囃子「若獅子会」同人。

●主催:福原 徹 ●制作:日本伝統音楽振興会 黒河内 茂 ●舞台監督:清野正嗣 ●協力:加藤繁治 ●デザイン:長田 彰

次回のご案内

徹の笛 第九回福原徹演奏会

平成29年(2017年)11月30日(木) 紀尾井小ホール(予定)